

# 会報

No. 32

平成5年12月15日

京都府図書館等連絡協議会

事務局

京都市左京区岡崎成勝寺町9  
京都府立図書館内  
TEL(075)771-0069

よろしくお願ひします

長岡京市立図書館長

安 岡 義 隆

先日、一席もうけ昔役所で同じ課

になった。

の仕事をしていた仲間七人が懐かしい話に華をさかせる機会があった。

しかし、人間ものは考え方で自分に都合よく解釈するものである。

今は部課も違うし立場も違うが

分に都合よく解釈するものである。

そのようなことは忘れ、皆若かった

うような迷惑なことはないとと思うよ

三〇年程の前にかえって楽しかった。

うにもなった。

その中の一人が突然「趣味は今の内に見つけとかな定年になつてからでは遅いぞ」という話しになつた。

タバコが身体に悪いことは誰でも知っている。ガンにかかりやすいことは今や定説で血圧を上げ脈拍を早め心臓に負担をかける等害ばかりで益なしだ。

畠暮やジョギングと色々な取組が自慢半分に参加者各々が語られたが私はこの手の話しが出ると肩身が狭い。

電車や駅、公共の場はこれからいつそう禁煙の場が増えるに違いない。

学生の頃はスポーツに明け暮れしていたので職場でも若かりし頃は野球やサッカー、畠暮等かじつてはみたが、今はテレビで楽しんでいるぐらいいだ。

二日酔いに苦しめられていたのからも解放され（怪我の巧妙といったところか？）おかげで三度の食事も大変おいしくいただけるようになつた。

二〇代の頃から三〇代後半はそれこそ若さにまかせて身体をいじめる無茶な遊び方もしたし、体力を過信して若さの特権だとぬぼれていた。

休日には文化、スポーツ情報を得て種々の行事や催し等に参加して結構充実した気分である。

天罰をきめん、四〇代後半健康を損ねてスポーツを楽しむどころでなくなってしまった。

これまでとりあげられ益々惨めな気持ち

世間一般にも以前に比べてマイカー

と願っています。

あなたたかいご教示、ご指導をよろ

をやめて自転車やジョギングシュー

ズをはいて徒步で通勤する人がふえ

てきたように思う。

なにより歩くことは簡単で費用もあまりかかりず、また、事故も起りにくいうえに健康に良いとなれば一石二鳥で、まさに健康は一生の宝だとは良くいったものだ。

ところで、本誌は図書館関係紙であり、ワープロをここまで打つて最初から脱線していたことにはたと気がついた、あの祭りで紙面が無い。

ところでも、本誌は図書館関係紙であり、ワープロをここまで打つて最初から脱線していたことにはたと気がついた、あの祭りで紙面が無い。

## 第一回理事会報告

平成五年度第二回理事会が、一〇月八日府立図書館で開催されました。

先ずはじめに各委員会の報告がされ、実務研修会、障害者サービスアンケート、新聞雑誌総合目録、広報の発行などそれぞれの分野で活動が進められていることが確認されました。

又、第二回京都図書館大会の実施要項についての報告がされました。

続いて公立図書館振興に関する要望活動について協議され、今年も各市町村あての要望書を作成してゆくことが決定されました。

最後に、今回申込があった井出町、和束町の図書室について、協議会への加盟が承認されました。

### 平成六年度研究集会のお知らせ

○全公図研究集会 開催地

整理部門研究集会 長崎県

奉仕部門研究集会 石川県

参考事務部門研究集会 秋田県

児童奉仕部門研究集会 埼玉県

○近公図研究集会 開催地

整理部門研究集会 神戸市

奉仕部門研究集会 大阪府

参考事務部門研究集会 奈良県

○全国図書館大会 日時 平成六年十月二六～二八日



### 近公図研究集会日程

◇参考事務部門研究集会

テーマ未定

日時 平成六年二月九日（水）

場所 大阪市立中央会館

◇児童奉仕部門研究集会

子どもに読書の楽しさを

テーマ

日時 平成六年二月十日（木）

場所 和歌山県立図書館

きのくに志学館内

和歌山県立図書館

### 京図連研究集会日程

◇研修研究委員会・障害者サービスの向上をめざすために

日時 平成六年二月十七日（木）

場所 枚方市立楠葉図書館

### 京都市左京図書館

「高野」も、はじめは「麿野」と記したと伝えられています。

それから、一二〇〇年、かつての原野は左京区第一の繁華な地区となり、立地条件のよさから、当館の貸出冊数は市内の図書館の中でも屈指の多さとなっています。

京都市左京区高野、当館の所在地です。比叡山の麓、高野川沿いのこのあたりは、かつて、大江文逸（平安時代の歌人）が『見わたせは高野ののへのうつきはらみな白妙に咲きにける哉』と詠じたほどの原野で、平安遷都の節、御狩場とされ、



図書館めぐり



図書館に沈思黙考の空間を求めて来る館された方が、あきれて帰られる姿を、複雑な思いで見送ることもしばしばとなっています。とはいっても、地域のミニコミ誌に「庶民的で気軽に利用できる図書館」との好意的な評価をいただいており、地域図書館としての役割——地域に密着すること——は果たしているものと安堵しているところです。

今後とも館の運営に工夫を凝らし、さらに地元に親しまれる図書館を目指してまいります。

## ニ ュ ー ス • N e w s

## 亀岡に分館第一号が設置

亀岡市立図書館  
大井分館

亀岡市立図書館の分館第一号「大井分館」が、平成五年七月二十日、JR嵯峨野線並河駅前のマンション「メディアス亀岡」の二階に開館しました。隣りには「大井生涯学習センター」、近くには大井小学校・大成中学校などがあり、たいへん便利な所に位置しています。

亀岡市では、市民の生涯學習熱が高まりを見せる中、その学習ニーズに応えるため、地域の生涯学習施設の整備を進めています。この分館もその施設の一つとして、また、亀岡市立図書館のネットワーク化を進めるためのモデル施設として整備されました。

この分館の前身は、昭和五十年に大井町コミュニティセンター内に開室した「大井分室」で、蔵書は児童書約三千冊、週一回の貸出しで運営していました。そのセンター移設に伴い、分館へと充実整備されました。規模約九十三坪、東南二面ガラス張りの明るい

館内に、蔵書約一万冊（内児童書三千冊）を備え、雑誌・新聞などのコーナーも設け、常日開館することがで

きるようになりました。

開館後二ヶ月間で、昨年の大井分室の利用をうわ回り、ますますの成果を見せていました。この利用を維持していくため、将来は蔵書を一万四千冊に増冊する予定です。しかし、

小さい分館ですので、今後の利用を伸ばすためには、いかに書架を魅力ある状態で維持できるか、いかに速く正確に参考業務・リクエスト等に応えられるか、図書館サービス本来の姿を問われると思われます。来年四月にはコンピュータを導入し、本館とのネットワークを図り、利用しやすい図書館をめざし頑張ります。

面積は五百七十五平方メートルと広くはありませんが、じゅうたん敷の幼児コーナーやビデオ機器、文字拡大器、対面朗読室、学習室等を設けています。又、書架コーナー南側壁面は全面ガラスで明るく、静かな環境とあいまって、利用者に好評を得ています。

オープニング以来、多くの来館者があり、貸出しも昨年の十倍となっています。特に、夏休みの間は、子供たちが開館を待ちわびて飛び込み、思

い深い時間過したり、お父さんやお母さんに登録や本の借り方を教える姿が見られました。

図書館を利用するには初めてとい

う人も多く、「図書館が新しくなったそだから……」、と物珍しげに来館された市民も「気軽に本が借りられ、楽しく便利だ」、と図書館フア

利用者がつくる  
図書館づくりを

## 綾部市図書館

子供たちが、楽しく充実した夏休みが過せるようになると、七月二十日、綾部市図書館が生まれ変わりオープンしました。

新図書館は、旧綾部簡易裁判所を

国から購入し、利用しやすく、将来の変化にも対応できるように増・改築し整備されました。

面積は五百七十五平方メートルと広くはありませんが、じゅうたん敷の幼児コーナーやビデオ機器、文字拡大器、対面朗読室、学習室等を設けています。又、書架コーナー南側壁面は全面ガラスで明るく、静かな環境とあいまって、利用者に好評を得ています。

今後、蔵書、各種資料の増加、充実に努め、利用者がつくる利用者のための図書館として、親しみやすく気軽に利用できる図書館づくりに努力していきたいと考えています。

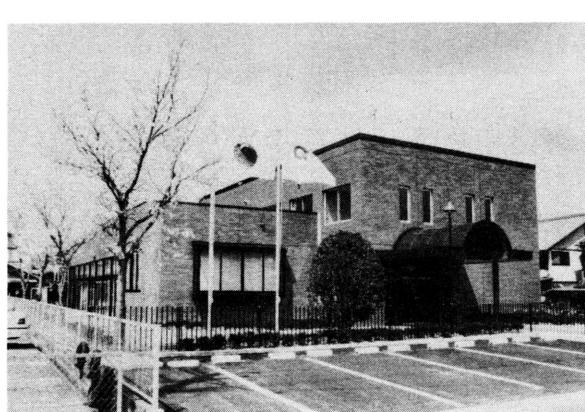
蔵書数は約三万一千冊と市民一人一冊にも満たず、利用者の多様な要望に十分応えきれないというのが現状です。

しかし、蔵書数は約三万一千冊と市民一人一冊にも満たず、利用者の多様な要望に十分応えきれないといえました。



オープン以来、多くの来館者があり、貸出しも昨年の十倍となっています。特に、夏休みの間は、子供たちが開館を待ちわびて飛び込み、思い深い時間過したり、お父さんやお母さんに登録や本の借り方を教える姿が見られました。

図書館を利用するには初めてとい



## 京図連43回実務研修会

京都府図書館等連絡協議会の第四十三回実務研修会は十一月十八、十九日、舞鶴市西総合会館で開催されました。

研修会のテーマは、日本図書館協会が作成した「公立図書館の任務と目標」とし、日本図書館協会から三苦正勝・枚方市立枚方図書館長、伊藤昭治・茨木市立中央図書館長、岸本岳文・滋賀県立図書館調査課副課長の3人を講師に迎えて、協会との共催で開かれました。

三苦氏は「任務と目標」を作るに至った経過と、その内容について説明し、「図書館の自由宣言」が最も基本になり、様々な問題も宣言に照らして考えれば解決策が見えてくる、と強調しました。また、宣言を職員の面から具体化したものとして「図書館員の倫理綱領」を説明しました。

伊藤氏は、神戸市や茨木市の例を交えて、「任務と目標」の一つ一つを実践すること、貸出の重要性は弱まつてはいないことなどを強調しました。

岸本氏は、滋賀県の例を中心に、市町村立図書館への援助について講演しました。その中では、「市町村が提供すると判断した本は県立の収

集方針に関わりなく尊重している。その意味で県立は矛盾を抱えているが、それを誇りに思う」という話が印象に残りました。また、図書館振興策について、滋賀県では、いい市町村立図書館を作ることが周辺市町村に影響を及ぼすとして、高い基準を設けて補助金を出していることが紹介されました。

討議では、様々な質問や意見が出されました。主なものを紹介します。  
選書・収集方針で気をつけることや、利用者が本を選ぶときの司書の役割は、

宇治：①人間の尊厳を傷つけるもの（ポルノ等）②外国文献③学習参考書を収集しない図書としており、

基準にかかりそうな本の対応に困っている。

伊藤氏：選書する人の条件は①カウンターに出ている人②本を読んでいる人③図書館は何をする所か解っている人だ。選書の方法・視点は前川恒雄氏の言う①読者が何かを発見する②具体的で正確なもの③美しい本・爽やかで心が洗われるもの、が参考になる。

学習参考書のように収集方針に明確なら断つてもいい。ポルノの場合、館が一方的に決めつけるのは問題だ。

上野千鶴子著『女遊び』を断つた館などは見識を疑う。

一定レベル以上の本しか入れない

という館があるが、それで子供が来ているのならないが、実際は利用が少なくなっている。

住民・行政の意識

伊藤氏：神戸市で館長が「貸出を伸ばさない方策」を出した時に、これに反対しない司書もいたが、こういう問題で専門職かどうかが問われる。茨木では、一つ一つの批判への答を作文し、図書館員が理論武装している。

図書館振興の為の行政は行政機関が担当し、図書館は図書館行政の結果を分担するものだ。

岸本氏：住民に先進後進の差はない、あるのは図書館の差だ。滋賀でも住民が変わったのではなく図書館が変わったと言える。

図書館振興：臨界点の計算方法。

住民の要求と支持によって予算が拡大された事例。滋賀県の巡回車の実態。他の市町村への貸出依頼は。

「県立図書館は：振興行政の主体とはなりえない」という規定に森崎氏が疑問を出していることについて。

岸本氏：新しい図書館を作る際には、充分に投資をしていい図書館を作つてほしい。中途半端なら止めた方がいい。臨界点として、延面積〇〇〇m<sup>2</sup>、蔵書三万冊、それを六～七年で更新できる年間三〇〇万円程の図書費はほしい。

図書館振興は滋賀でも行政が担当している。振興施策は一九八一年から十年を経た時点で、これからの図書館の規模を見直し、開館時の補助

金を一〇〇〇万円にして蔵書二万冊以上でオープンできるようにした。

三苦氏：図書館の発展前期には、まず行政が豊かなものを住民に提供することが大切と考えられ、日野市で実践され成果をあげた。現在、図書館間の格差が大きくなつており、「任務と目標」の一つ一つを実践することが大事だ。

図書館振興の為の行政は行政機関が担当し、図書館は図書館行政の結果を分担するものだ。

府立：協力貸出も昭和五六年に六町三六冊だったのが平成四年には九〇〇冊、今年は一万冊を超えてい。予算が伸びず参考図書も買えない状態だが、遠慮なく言ってほしい。

広いテーマだったので、十分な議論にならなかつたが、各講師の経験から生まれた説得力のある内容がテー

マを一層深めたと思われる。

中でも滋賀県立図書館が「市町村への援助を最大限に重視してとりくみ成果をあげていた」という報告が印象に残り、また府立図書館の協力貸出の飛躍的な増加、府下各図書館の貸出の増加という現状にとどまらず各館の図書館サービスの充実策をふりかえり、その発展へさらなる努力を痛感させられた「一泊研修」でした。

（研修研究委員会まとめ）

## 実務研参加報告

京都市東山図書館

森脇祐美

紅葉も終りに近づいた晩秋の西舞鶴において、先日、第43回実務研修会が行われた。久し振りに参加する研修、それも宿泊研修とあって期待と不安の中での参加となつた。

研修テーマとして、住民のための選書・貸出制限・府県立図書館の機能などについて次々と講演をされた。まず、公立図書館が住民に何をなすべきかという点で、市民の求める図書を提供すること、児童サービス、全域旅游サービスについて、また、職員の任務についても話された。次に、図書館サービスにおいてレファレンスが重視され、貸出しが軽視されているのではないか、あくまでも貸出しがサービスの基本であること。選書基準の見直しでは、質へのこだわりから利用者の要求とのギャップが生じているのではないかを論じられた。統いて、都道府県立図書館は市町村立図書館を補佐し、要求に応えなくてはならないこと、資料を豊富に揃えること、またそれをどう残してゆくかが重要だということであつた。質疑応答では、リクエストの制限や住民参加の問題が出されるなど

活発なものとなつた。講演の中で選書について質へのこだわりから利用者が読みたい図書が館から消えていくことはあつてはならない、一度も読まれない図書があることはいけないと論じられ、私も共鳴させられた。

図書の内容の良否を競うよりも、どんな図書がどのように読まれているか、利用者の嗜好を知らなければ「まちの図書館」として意味がないのではないかだろうか？図書館が変わり、図書館員が変わらなければ利用者の図書館に対するイメージも変わらないということを強調された。

懇親会においても、日頃の疑問や自館の現状等を話し合うなど充実した時間を共にできたようだ。

地域に根ざした身近な図書館でなければと思いつつ、図書の貸出しだけでなくコミュニケーションの場として地域の人々に喜ばれるよう努力しなければならない。そのためには、私たち職員一人一人が自覚を持ち、行動し切り拓いていくことが必要であろう。と、いつもと違い、柄にもなく少し考えつつ、帰路を急ぐ車中、今度は「駅弁」のおいしいのはどれかなあと悩んでしまうという、いつもの私であった。

長岡市立図書館  
法貴隆司

一九九三年十一月十八～十九日に第四三回実務研修が、茨木市立中央図書館長の伊藤昭治氏、枚方市立枚方図書館長の三苦正勝氏、滋賀県立

図書館調査課副課長の岸本岳文氏の三人に講師として来ていただき、日本図書館協会と京都府図書館等連絡協議会の共催で行われた。

研修会は日本図書館協会発行の『公立図書館の任務と目標』を中心

にすすめられた。

一日目の最初に三苦氏から、日本図書館協会に政策委員会が発足した経緯から（三氏とも政策委員）討議の内容、公立図書館がするべき仕事である貸出、予約サービス、レファレンス等々について理論的なことを話していくだけだった。また、委託のことについて、委託は名目上的人件費が削減されるに過ぎず、委託の理由としてよくあげられる経費節減にはならないこと。委託すると議会のチェックが掛からなくなるため、責任の所在があいまいになり住民の意思が届かないことなどを話された。

た。

二日目は前日の話についての質問や、各館の予約についての悩みや、ボランティアと図書館の関わり、選書についての質問、図書館現場とまわりの職員の図書館観の差をどのように克服していくべきかなどが、参加者から出され、講師がそれに答える形で研修を深めた。経験豊富な講師の熱のこもった話を聞くことができた、有意義な二日間であった。

過剰サービスだという論がよく出てくる」「仕事にすぐ役立つ新しい情報提供することが今後必要になる」など、現場に即した問題点を挙げられ、図書館サービスを後退させるような動きに対して、きちんと対処するためには、よく研究し理論武装しなければならないことを強調された。

最後に岸本氏が県立図書館のことを見た。滋賀県立図書館の具体例を挙げながら「県立図書館の最も重要な役割は市町村立図書館の援助にあること」

「児童書の全点購入をすると子どもを取り巻く出版状況がよくわかること」と「連絡車の意義」などを話された。

次に伊藤氏が、「今だに図書館は学生の勉強するところという図書館に対する認識が根強く残っている」



